

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	論理国語	単位数	3 単位	学年・学科・コース	3 年・衛生看護科
使用教科書	新論理国語(三省堂)		副教材等	総合文字力(漢字)(尚文出版)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</li> <li>・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</li> <li>・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</li> </ul>
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることができる。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うことができる。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 5	この十年をどう生きるか	多様な論点を結びつける。	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</li> <li>・文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。</li> <li>・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習課題に沿って、資料との関係を把握して内容や構成を的確に捉え、自分の考えを論述しようとしている。</li> </ul>	授業態度 定期考査 小テスト 課題
6	日本マンガのブルーオーシャン戦略	書き手の立場や目的を考える。	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章や資料から、筆者の伝えようとしていることを的確に読み取り、理解を深めている。</li> <li>・設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。</li> <li>・文章や資料の情報を複合的にとらえて筆者の考えを解釈し、自分の考えを広げることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。</li> </ul>	
7 8	誰かの靴を履いてみること	さまざまな視点から評価する。	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。</li> <li>・筆者の主張とその根拠について、様々な視点から評価し、自分の考えを深めている。</li> <li>・筆者の主張とその根拠について、様々な視点から評価し、自分の考えを深めようとしている。</li> </ul>	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
9 10	文系と理系の壁はあるか	内容の解釈を深める。	○			・論証したり学術的な学習の基礎を学んだ りするために必要な語句の量を増やし、 文章の中で使うことを通して、語感を磨き 語彙を豊かにしている。	授業態度 定期考査 小テスト 課題
				○		・文章の内容や構成、論理の展開などを的 確に捉えることで筆者の主張を適切に理 解し、解釈している。	
					○	・文章の内容や解釈を多様な論点や異なる 価値観と結び付けて、新たな観点から自 分の考えを深めようとしている。	
11 12 1	未来のありか	自分の考えを捉え直す。	○			・文章の種類に基づく効果的な段落の構成 や論の形式など、文章の構成や展開の仕 方について理解を深めている。	
				○		・筆者の立場や目的を考えながら内容の解 釈を深めることを通して、自分の考えを捉 え直している。	
					○	・筆者の立場や目的を考えながら内容の解 釈を深めることを通して、自分の考えを捉 え直そうとしている。	

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	地理総合	単位数	2単位	学年・学科・コース	3年・衛生看護科
使用教科書	わたしたちの地理総合(山川出版社) 新詳高等地図(帝国書院)		副教材等	わたしたちの地理総合ワークブック(山川出版社)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
知識: 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。 技能: 地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深めている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	第1部 地図でとらえる現代社会 第1章 地図と地理情報システム ・地球上の位置と時差 ・地図の役割と種類 第2章 結びつきを深める現代社会 ・現代世界の国家と領域	・位置情報の基礎として、球体の地球、緯度・経度の基本的なしくみ、地球上での位置の示し方を理解する。 ・経度の違いから時差の概念を捉え、時差計算の技能を身につけ、球面として成り立つ世界認識をもつ。	○			地球上での位置、太陽高度変化、緯度経度のしくみ、時差の計算の仕方を理解する。	
				○		球体の地球の観点から、図を活用して地球上の位置や時差を捉え、説明できる。	
					○	球体の地球の把握に向け意欲的に探究し、作業や考察に取り組もうとしている。	
5	・グローバル化する世界 第2部 国際社会と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 ・世界の地形と人々の生活	・世界の大地形がプレートテクトニクスとプレート境界と関連し、変動帯では大地形を形成し、地震や火山が生じることを理解する。 ・河川、海岸など外的営力による地形形成と広がり、地形に対応した人々の生活と地形を取り巻く環境の変化について、写真や地形図などの資料を通して考える。	○			地形に関する知識と世界の地形分布の特徴、地形図の等高線や地図記号を判読し、地形や土地利用を捉えることができる。	授業態度 定期考査 学習プリント 課題
				○		世界の地形をプレートテクトニクスと関連づけ、地形と比較して考察できる。 生活する地域の地形を、資料などから捉え、生活との関連を考察できる。	
					○	地形図や分布図、写真、模式図の読み取りや作業に意欲的に取り組み、地形と生活との関連を捉えようとする。	
6	・世界の気候と人々の生活	・大気や海流が循環するしくみを捉え、その影響を反映した気候の地域性があることを理解する。 ・降水量と気温の特徴からケツペンの気候区分を捉え、植生や農業など生活文化に影響することを理解する。	○			大気の大循環と海洋、大気のしくみと各気候の特徴を理解し、資料から各気候と植生の関連、人々の生活を読み取り、整理できる。	
				○		世界規模の大気のしくみと人間生活との関連を資料から考察し、各気候による景観の違いを捉え、生活への影響を考察できる。	
					○	資料の判読を通じて、世界各地の気候や生活文化を意欲的に探究し、資料の作成に意欲的に取り組んでいる。	
7	・世界の言語・宗教と人々の生活	・生活文化の多様性について、宗教、言語分布や人々との関わりを資料から理解し、分布を示す要因を理解する。 ・世界の少数民族、移民、難民の問題を捉えながら、マイノリティなどをふまえた多様な人々に配慮し、自他の文化を尊重する社会の実現を考える。	○			世界の多様性を理解し、異文化を尊重する姿勢が重要性を理解し、資料から世界の宗教分布と特徴を捉えることができる。	授業態度 定期考査 学習プリント 課題
				○		生活と宗教の関連を地域性や歴史的背景をから捉え、資料をもとに考察し、難民と移民の問題を資料から捉え、考察できる。	
					○	世界宗教の特徴をまとめ、身近な地域の外国人の受け入れなどと関連させて追究し、難民と移民の問題構造を調べ、難民問題の解決策を意欲的に探究しようとする。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
8 ・ 9	・歴史的背景と人々の生活 ・世界の産業と人々の生活	・生活文化が各地の環境に基づき発達する産業を基盤に成り立つ現状を捉え、世界スケールにおける各産業産業の地域的特徴をグローバル化の観点で理解する。 ・産業と生活文化の関連と産業変化を主題図などの資料を通じて理解を深める。	○			世界の視野からみた産業の特徴と分布を概観し、資料から世界の産業の分布と発達を捉えることができる。 自然環境が産業の形成に関わっていることを資料から考察し、産業の変化をグローバル化の観点で考察できる。 身近な商品が世界規模の産業構造に位置づけられることと、産業の発達を時事的話題とともに意欲的に捉えようとする。	
10	第2章 地球的課題と国際協力 ・複雑に絡み合う地球的課題 ・地球環境問題	・持続可能な地球社会を考えるうえで、地球規模で起きている環境問題は、一国だけで対応できるものではないこと、多面的・多角的に考えていくことが必要であること、自らとかわる問題であることをSDGsをふまえて認識する。	○			SDGsの目標と趣旨を理解し、各種ウェブサイトや資料から環境問題を捉え、原因や影響を図解して整理できる。 地球環境問題を資料からまとめ、持続可能な社会の実現の提案し、自然を守るための取り組みや具体的な対策を提言できる。 地球環境問題の理解と、それらが人々の生活に与える影響を意欲的に探究し、どのような行動ができるかを追究しようとする。	
11	・人口問題	・人口が急増している世界の現状を捉え、人口ピラミッドや相関図などの資料から人口問題の構造と地域差を捉え、人口問題の背景や問題点を整理する。	○			人口問題を理解し、人口増加地域と人口停滞地域の人口問題の違いを整理できる。 人口資料をもとにした図版を読み取り分析することができる。 世界の人口問題の現状を資料を比較しながらまとめ、日本の人口問題についての提言を他国と比較しながら考察できる。 世界や主要国の人口の推移を捉え、他国の事例を参考にして日本と比較しながら人口問題について意欲的に探究しようとする。	
12	・食糧問題 ・都市・居住問題	・持続可能な社会をつくるために、飢餓とその要因である人口問題、食料問題について、主題図やグラフなどの資料を集め、グローバル、ローカルのそれぞれ異なる視点から根拠をもとにSDGsと関連づけ対応策を構想する。	○			世界の食料問題を主題図から現状を認識し、その自然的、社会的な背景を理解できる。 飢餓と飽食の世界的な分布を資料から考察し、その背景とSDGsの目標をふまえ、具体的な対策を協議できる。 人口問題と食料問題を捉え、両者のつながりを図表などを用いて意欲的に整理し、国際協力を具体的に追究しようとする。	
1	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 ・日本の自然環境 ・地震…津波と防災 ・火山災害と防災 ・自然災害への備え	・日本列島の地形と気候の特徴と、その多様性から自然の恩恵と自然災害を与える要素があることを理解する。 ・各地の自然災害を理解し、各種災害の具体的な事例を新旧の地形図、ハザードマップ、気象情報、電子地図などを利用する技能と捉える。	○			日本の自然環境の特徴と生活文化との関わりを理解する。 日本の自然環境と生活との関わりを主題図や写真から考察できる。 自然環境の特徴と自然災害とのつながりを意欲的に探究し、過去の災害事例を調ようとする。	授業態度 学習プリント 課題
2	第2章 生活圏の調査と地域の展望 ・生活圏の調査と地域の展望	・日本の地域的な課題について、身近な地域を例に取り上げ、人口の少子高齢化、過疎化を景観観察や聞き取りを通じた調査の技能を身につける。 ・現地調査と資料で得た結果をまとめ、他地域と比較して考察する技能を身につける。 ・調査結果をもとに、地域の活性化に向けたまちづくりのプランを発表する。	○			地域的課題の調査法を理解し、主題図に表現する方法と他地域と比較して考察する技能を身に付けている。 調査で得られた結果を、主題図や表などに整理し、地域の特徴や課題を見つけ、まちづくりのプランを構想できる。 身近な地域の課題を見出し、主題図やグラフなどの資料の作成と調査結果を根拠にした課題解決に向けたまちづくりのプランを検討し、発表できる。	

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	数学 A	単位数	2単位 (1~3学期)	学年・学科・コース	3年・衛生看護科
使用教科書	最新 数学 A (数研出版)		副教材等		なし

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 5 6 7	総合演習 第1章 場合の数と確率	場合の数や確率を求めるときに基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○			様々な事象に対して、順列や組合せを使い分けながら場合の数を求めることができる。	授業態度 課題 定期考査
				○		場合の数を数える適切な方針を考察することができる。	
					○	複雑な事象の確率を意欲的に求めようとする。	
8 9 10 11	総合演習 第2章 図形の性質	平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○			定理を適切に利用して、線分の比や長さ、角度などを求めることができる。	
				○		静的・動的な図形の性質を多角的に捉え、考察することができる。	
					○	図形の性質やその証明に興味・関心を持つことができ、複雑な図に対しても積極的に考えようとする。	
12 1 2	総合演習 数学 A	既習の知識を利用し、問題を解くことができるようにする。	○			公式を用いて、解答を導くことができる。	授業態度 課題
				○		問題の意味を捉え、的確な方法で解答することができる。	
					○	様々な問題を興味・関心をもち、考察しようとする。	

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	科学と人間生活	単位数	2単位	学年・学科・コース	3年・衛生看護科
使用教科書	科学と人間生活(東京書籍)		副教材等	ニューサポート 改訂 科学と人間生活(東京書籍)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを行うことを通して、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。また、自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察、実験などを見通しをもって行うことなどを通して理解し、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術と人間生活とのかかわりについて理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身に付けている。	人間生活と関連のある自然の事物や現象の中に問題を見出し、見通しをもって実験・観察・調査などを行うとともに、ものごとを実証的・論理的に考察したり分析したりすることにより、総合的に判断し、それを表現することができる。	自然の事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度が養われている。自然の原理・法則や科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて社会が発展するための基盤となる科学に対する興味・関心を高めている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 5 6	2編 物質の化学 1章 材料とその利用 1 リサイクルとは何か 2 金属の性質とその再利用 3 プラスチックの性質とその再生利用	・循環型社会を目指す必要性と3Rについて理解する。 ・金属と非金属の性質の違いを比較して、金属に特有の性質について理解する。 ・プラスチックや金属の再生利用の基本について理解し、その重要性について考察する。	○	○	○	・3Rや循環型社会の利点や課題について理解している。 ・金属やプラスチックの再生利用の利点について、資料などを基に科学的に考察して見だし、表現できる。 ・学んだことや生活経験を生かして、物質循環の実現に向けて、主体的に課題を考えることができる。	定期考査 授業態度 授業ノート 課題
7 8 9	3編 光や熱の科学 2章 熱の性質とその利用 1 熱とは何か 2 エネルギーの利用と私たちのくらし	・熱の性質、エネルギーの変換と保存および有効利用について、日常生活と関連付けて理解する。 ・熱の性質とその利用に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。	○	○	○	・熱の性質、エネルギーの変換と保存および有効利用についての基本的な概念や原理・法則などを日常生活と関連付けて理解している。 ・熱の性質とその利用について、問題を見だし、人間生活と関連付けて、科学的に考察し、表現できる。 ・熱の性質とその利用に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	定期考査 授業態度 授業ノート 課題
10 11 12 1	1編 生命の科学 2章 ヒトの生命現象 1 ヒトの視覚と光による影響 4編 宇宙や地球の科学 2章 自然景観と自然災害 1 身近な自然景観の成り立ち 2 自然災害と防災	・視覚と光について、人間生活と関連付けて理解する。 ・日本における自然環境の特徴を理解し、それらがもたらす恩恵や災害など、人間生活が自然環境と深く関わっていることを理解する。	○	○	○	・日本列島における自然環境の特徴について理解している。 ・自然災害の起きる原因や条件を理解し、災害リスクを減らすための方法について総合的に判断し、表現できる。 ・日本の自然環境がもたらす災害と恩恵について関心をもち、意欲的に学習しようとする。	定期考査 授業態度 授業ノート 課題

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	体育	単位数	2単位	学年・学科・コース	3年・衛生看護科
使用教科書	なし			副教材等	なし

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。</li> <li>・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</li> <li>・生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</li> </ul>
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身につけている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身につけている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	体づくり運動	・心と体の関係に気づき、仲間と交流する。	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己のねらいに応じて効果的な成果を得るための適切な運動の行い方を理解できる。</li> <li>・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</li> <li>・体づくり運動の学習に主体的に取り組もうとしている。</li> </ul>	授業態度 学習カード
	体育理論	・スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から、多角的に思考し判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気づく。	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解できる。</li> <li>・ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに他者に伝えること。</li> <li>・体育理論の学習に主体的に取り組もうとしている。</li> </ul>	
5	器械運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(器械運動)技ができる楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、運動の観察、体力の高め方を理解する。</li> <li>・(陸上競技)記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を身につける。</li> <li>・(ダンス)感じを込めて踊ったり仲間と自由に踊ったり、自己や仲間の課題を解決したりするなどの多</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・(器械運動)回転系の接転技群、ほん転技群の基本的な技、巧技系の平均立ち技群の基本的な動きを理解するとともに、自己に適した技で演技することができる。</li> <li>・(陸上競技)技術と関連させた運動や練習を繰り返したり継続して行ったりすることで結果として体力を高めることができることを理解できる。</li> <li>・(ダンス)イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表を理解できる。</li> <li>・(器械運動)自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。</li> </ul>	
6	陸上競技(競走・跳躍・投擲)						
7	ダンスから選択						
8							

		様な楽しさや喜びを味わい、それぞれ特有の表現や踊り方を身につけて交流や発表する。				<ul style="list-style-type: none"> <li>・(陸上競技) 自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。</li> <li>・(ダンス) 作品の創作や発表会に向けた仲間と話し合う場面で合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えることができる。</li> </ul>	
					○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(器械運動・陸上競技・ダンス) 自主的に取り組み、互いに助け合い教え合うことや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にできる。</li> </ul>	
9	体育理論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から、多角的に思考し判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気づく。</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方について理解できる。</li> </ul>	
					○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己や自己を取り巻く環境の変化を予想し、自己や社会についての課題を発見し他者に伝えることができる。</li> </ul>	
					○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方について主体的に取り組むことができる。</li> </ul>	
9 10	球技・武道から選択  球技(ゴール型・ネット型 ベースボール型) 武道(剣道・柔道)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(球技) 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。</li> <li>・(武道) 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開する。</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・(球技) 型や種類によって必要な体力要素がありその型や種目の技能に関連させながら体力を高めることができる。</li> <li>・(武道) 伝統的な考え方は対戦相手は「道」を追究する大切な仲間であることを理解できる。</li> </ul>	授業態度 学習カード
					○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(球技) チームでの学習で状況に応じてチームや自己の役割を他者に伝えることができる。</li> <li>・(武道) 練習や試合の場面で自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を提案することができる。</li> </ul>	
					○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(球技) 一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にすることができる。</li> <li>・(武道) 相手を尊重し礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとするすることができる。</li> </ul>	
10	体づくり運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画たて、取り組む。</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力の構成要素は健康に生活するための体力と運動を行うための体力に密接に関係していることを理解することができる。</li> </ul>	
					○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題に応じて、これまでに学習した内容を学習場面に応用することができる。</li> </ul>	
					○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の違いを大切に、健康・安全を確保することができる。</li> </ul>	
11 12 1 2	球技・武道から選択  球技(ゴール型・ネット型 ベースボール型) 武道(剣道・柔道)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(球技) 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。</li> <li>・(武道) 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開する。</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・(球技) 型や種類によって必要な体力要素がありその型や種目の技能に関連させながら体力を高めることができる。</li> <li>・(武道) 伝統的な考え方は対戦相手は「道」を追究する大切な仲間であることを理解できる。</li> </ul>	授業態度 学習カード
					○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(球技) チームでの学習で状況に応じてチームや自己の役割を他者に伝えることができる。</li> <li>・(武道) 練習や試合の場面で自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を提案することができる。</li> </ul>	
					○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(球技) 一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にすることができる。</li> <li>・(武道) 相手を尊重し礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとするすることができる。</li> </ul>	

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	3単位	学年・学科・コース	3年・衛生看護科
使用教科書	VISTA English Communication II		副教材等	VISTA English Communication II ワークブック(三省堂)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きに関する知識を身につけ、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせて、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他社とのかかわりに着目してとらえることを通して、目的や場面、状況にあわせた実践的なコミュニケーションに必要な資質・能力を育成することを目指す。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を深めており、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面に応じて適切に活用できる技能を身につけている。	コミュニケーションを行う目的や場面に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考え、話し手や書き手の意図などを的確に理解しており、また、これらを活用して表現している。	外国語の背景にある文化について理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 ・ 5	Lesson 4 Designing Stamps	切手デザイナーの仕事とその魅力について概要を把握し、話したり書いたりして伝えることができる。 形式主語 it、形式目的語 it の働きを理解し、読み取ったり、表現に使用したりする。	○			切手デザイナーの仕事について、形式主語や目的語に注意しながら、内容を読み取ることが出来る。	発問評価 定期考査 提出物 小テスト
				○		内容について、理解を深めるために概要や要点を把握し、自分の考えや情報を整理して伝えることが出来る。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句や分を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことが出来る。	
6	Lesson 5 Mont-Saint-Michel	世界遺産モン・サン・ミッシェルや日本の世界遺産について概要を把握し、話したり書いたりして伝えることができる。 現在完了進行形・過去完了形・過去完了進行形の働きを理解し、読み取ったり、表現に使用したりする。	○			世界遺産が抱える問題について、完了形に注意しながら、内容を読み取ることが出来る。	発問評価 定期考査 提出物 小テスト
				○		内容について、理解を深めるために概要や要点を把握し、自分の考えや情報を整理して伝えることが出来る。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句や分を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことが出来る。	
7 ・ 8	Lesson 6 Smart Agriculture	日本の農業が抱える様々な課題を解決する手段となる「スマート農業」について概要を把握し、話したり書いたりして伝えることが出来る。 have been done, will be done の働きを理解し、読み取ったり、表現に使用したりする。	○			「スマート農業」について、動詞の受動態に注意しながら読み取ることが出来る。	発問評価 定期考査 提出物 小テスト
				○		内容について、理解を深めるために概要や要点を把握し、自分の考えや情報を整理して伝えることが出来る。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句や分を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことが出来る。	
9	Lesson 7 A Martial Art on Tatami	「競技かるた」の世界とその魅力について概要を把握し、話したり書いたりして伝えることが出来る。 関係代名詞非制限用法・関係代名詞 what の働きを理解し、読み取ったり、表現に使用したりする。	○			「競技かるた」について、関係詞に注意しながら読み取ることが出来る。	発問評価 定期考査 提出物 小テスト
				○		内容について、理解を深めるために概要や要点を把握し、自分の考えや情報を整理して伝えることが出来る。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句や分を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことが出来る。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
10	Lesson 8 Biologging	動物の行動や生態記録し、環境変化の予測にも役立つ先進技術「バイオロギング」の概要を把握し、話したり書いたりして伝えることができる。 分詞構文・強調構文の働きを理解し、読み取ったり、表現に使用したりする。	○			「バイオロギング」について、分詞構文・強調構文に注意しながら読み取ることができる。	
				○		内容について、理解を深めるために概要や要点を把握し、自分の考えや情報を整理して伝えることができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句や分を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	
11	ENJOY READING 1 The Open Window  ENJOY READING 2 The Christmas Truce	まとまった英文を読み、概要を把握し、話したり書いたりして伝えることができる。	○			英語の語彙や表現の理解を深めながら英文を読み解く。	
				○		内容について、理解を深めるために概要や要点を把握し、自分の考えや情報を整理して伝えることができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句や分を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	
12	ENJOY READING 3 My Dream  ENJOY READING 4 The Restaurant of Many Orders	まとまった英文を読み、概要を把握し、話したり書いたりして伝えることができる。	○			英語の語彙や表現の理解を深めながら英文を読み解く。	
				○		内容について、理解を深めるために概要や要点を把握し、自分の考えや情報を整理して伝えることができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句や分を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	
1	総合問題演習	まとまった英文を読み、概要を把握し、話したり書いたりして伝えることができる。	○			英語の語彙や表現の理解を深めながら英文を読み解く。	
				○		内容について、理解を深めるために概要や要点を把握し、自分の考えや情報を整理して伝えることができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句や分を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	基礎看護	単位数	1単位	学年・学科・コース	3年・衛生看護科
使用教科書	基礎看護 (実教出版)		副教材等	看護学入門6 基礎看護Ⅱ 看護学入門7 基礎看護Ⅲ (メヂカルフレンド社)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>看護の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、看護の基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する基礎的な技術を身に付ける。</li> <li>・看護に関する基礎的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。</li> <li>・基礎看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、日常生活の援助及び診療に伴う援助における看護の課題解決に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</li> </ul>
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
看護の社会的な役割や機能とそれに伴う責任を歴史的な経緯を含めて理解するとともに、実践的・体験的な学習活動を通して、看護の共通技術を基に基礎的な援助に関する知識と技術を身に付けている。	援助を必要とする身近な事例を取り上げ、看護の職業倫理を踏まえて生活者の安全・安楽や生活の質の向上の視点から援助を考察するとともに、実施する援助の科学的根拠を明確にして問題を解決する力を身に付けている。	看護の本質の理解を基に望ましい看護観や職業観、倫理観を育み、人間愛を基盤とする豊かな人間性をもって、人々の健康の保持増進のためによりよい看護を目指し、主体的かつ協働的に看護の実践に取り組む態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 5	診療に伴う援助	救命救急処置	○			・診療に伴う援助について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。	定期考査 授業態度 発問評価 提出物 小テスト
				○		・診療に伴う援助について基本的な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。	
					○	・診療に伴う援助について自ら学び、対象の安全・安楽を守り、救命や回復の促進、穏やかな最期を目指して、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
9 10 11 12	看護の共通技術	看護過程	○			・看護の共通技術について理解するとともに身に付けることができる。	定期考査 授業態度 発問評価 提出物 小テスト
				○		・看護の共通技術について基本的な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。	
					○	・看護の共通技術について自ら学び、対象に応じて実際の看護を適切かつ安全に展開できるよう主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	成人看護	単位数	1単位 (1,2学期)	学年・学科・コース	3年・衛生看護科
使用教科書	看護学入門10 成人看護Ⅲ (メヂカルフレンド社)		副教材等	なし	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>看護の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、成人看護の実践に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成人看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。</li> <li>・成人看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。</li> <li>・成人看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、成人の健康の保持増進に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。</li> </ul>
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
対象となる年齢層が幅広く、生活形態の変化も大きい成人期の疾病予防や障害等に応じた看護について、具体的な事例を通して学習することによって、生活習慣や家事、仕事、子供の育児、親の介護等が成人期の健康に与える影響を理解し、健康の回復や保持増進に関わる技術を身に付けている。	成人期の健康課題について具体例を取り上げ、看護の職業倫理を踏まえ意思決定や行動変容を支援して、望ましい生活習慣の獲得、セルフケアを促す視点から援助を考察するとともに、実施する援助とその根拠を明確にして、課題を解決する力を身に付けている。	成人の健康課題の解決に当たっては、仕事や家庭、地域社会での役割と健康づくりの両立を目指し、主体的かつ協動的に看護の実践に取り組む態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
5 6 7 8	機能障害のある患者の看護	・感覚機能障害	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機能障害のある患者の看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。</li> <li>・機能障害のある患者の看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。</li> <li>・機能障害のある患者の看護について自ら学び、患者の安全・安楽を守り、回復の促進を目指して主体的かつ協動的に取り組もうとしている。</li> </ul>	定期考査 授業態度 発問評価 提出物 小テスト
9 10 11 12	機能障害のある患者の看護	・性・生殖・乳腺機能障害	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機能障害のある患者の看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。</li> <li>・機能障害のある患者の看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。</li> <li>・機能障害のある患者の看護について自ら学び、患者の安全・安楽を守り、回復の促進を目指して主体的かつ協動的に取り組もうとしている。</li> </ul>	定期考査 授業態度 発問評価 提出物 小テスト

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	老年看護	単位数	2単位 (1,2学期)	学年・学科・コース	3年・衛生看護科
使用教科書	看護学入門II 老年看護 (メヂカルフレンド社)		副教材等	なし	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>看護の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、老年看護の実践に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老年看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。</li> <li>・老年看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。</li> <li>・老年看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、高齢者の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</li> </ul>
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
高齢者の多様性を統計資料等から理解するとともに、健康寿命を延伸し、地域で自立した生活を支える制度や援助及び健康状況に応じた看護に関する知識と技術を身に付けている。	加齢とともに健康課題が増加する高齢者の具体例を取り上げ、看護の職業倫理を踏まえ、高齢者の安全・安楽や権利擁護、人間としての尊厳、自立の視点から援助を考察するとともに、介護を行う家族を含めて実施する援助とその根拠を明確にして課題を解決する力を身に付けている。	高齢者の健康課題の解決に当たっては、高齢者の健康寿命の延伸、意思決定の支援、権利の擁護とともに疾患にかかわらず自立した生活の維持を重視し、主体的かつ協働的に看護の実践に取り組む態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	高齢者の特徴と看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の生活と健康</li> <li>・高齢者の保健と福祉</li> <li>・老年看護の特徴</li> <li>・老年看護の倫理的課題</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の特徴と看護について理解できる。</li> <li>・高齢者の特徴に関わる多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。</li> <li>・高齢者の特徴と看護について自ら学び、高齢者の健康の保持増進を目指して、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</li> </ul>	定期考査 授業態度 発問評価 小テスト 提出物
5 6	高齢者の生活を支える看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者のアセスメント</li> <li>・コミュニケーション</li> <li>・食事と栄養</li> <li>・排泄</li> <li>・清潔</li> <li>・歩行・移動</li> <li>・睡眠</li> <li>・活動と生きがい</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の生活を支える看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。</li> <li>・高齢者の生活に関わる多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。</li> <li>・高齢者の生活を支える看護について自ら学び、その生活の質の改善に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</li> </ul>	
7 8	診療を受ける高齢者の看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急性期</li> <li>・慢性期</li> <li>・終末期</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療を受ける高齢者の看護について、各病期の特徴を理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。</li> <li>・診療を受ける高齢者の各病期の看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。</li> <li>・診療を受ける高齢者の各病期の看護について自ら学び、高齢者の健康の保持増進または看取りの支援について主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</li> </ul>	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
9 10 11 12	高齢者に多い健康障害と看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症</li> <li>・骨折</li> <li>・パーキンソン症候群</li> <li>・認知症</li> <li>・うつ</li> <li>・せん妄</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者に多い健康障害と看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。</li> <li>・高齢者に多い健康障害と看護について多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて解決策を見いだすことができる。</li> <li>・高齢者に多い健康障害と看護について自ら学び、高齢者の健康の保持増進を目指し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</li> </ul>	定期考査 授業態度 発問評価 小テスト 提出物

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	小児看護	単位数	1単位 (1,2学期)	学年・学科・コース	3年・衛生看護科
使用教科書	看護学入門II 母子看護 (メヂカルフレンド社)		副教材等	なし	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>看護の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、小児看護の実践に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小児看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。</li> <li>・小児看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。</li> <li>・小児看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、小児の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</li> </ul>
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
小児の成長・発達の過程を身体的・精神的・社会的側面から理解するとともに、成長・発達に応じた育児及び健康状況に応じた看護に関する知識と技術を身に付けている。	成長・発達の過程にある小児の健康課題の具体例を取り上げ、看護の職業倫理を踏まえ、小児の安全・安楽や権利擁護、成長・発達を促す視点から援助を考察するとともに、家族を含めて実施する援助とその根拠を明確にして課題を解決する力を身に付けている。	小児の健康課題の解決に当たっては、疾病・障害等の回復や健康管理とともに、小児の成長・発達の視点を重視し、主体的かつ協働的に看護の実践に取り組む態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
5 6 7 8	小児の健康と看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児の健康の特徴</li> <li>・小児の保健と福祉</li> <li>・小児看護の特徴</li> <li>・小児看護の倫理的課題</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児の健康と看護について理解できる。</li> <li>・小児の健康と看護に関わる多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。</li> <li>・小児の健康と看護について自ら学び、小児の健康の保持増進を目指して、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</li> </ul>	定期考査 授業態度 提出物 小テスト
9 10	小児各期の健康課題と看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新生児期・乳児期</li> <li>・幼児期</li> <li>・学童期</li> <li>・思春期</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児各期の健康課題と看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。</li> <li>・小児各期の健康課題と看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。</li> <li>・小児各期の健康課題と看護について自ら学び、健康の保持増進を目指し主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</li> </ul>	定期考査 授業態度 提出物 小テスト

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	母性看護	単位数	1単位 (1,2学期)	学年・学科・コース	3年・衛生看護科
使用教科書	看護学入門12 母子看護 (メヂカルフレンド社)		副教材等	なし	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>看護の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、母性看護の実践に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母性看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。</li> <li>・母性看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。</li> <li>・母性看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、母性の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</li> </ul>
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
健全な母性観・父性観を育み、これを基に具体的な事例を通して学習することによって、性と生殖に関わる健康の保持増進、生命の尊重及び人権の擁護を行うために必要な知識と技術を身に付けている。	母性に関する健康課題について具体例を取り上げ、看護の職業倫理を踏まえ、性と生殖に関わる健康、生命の尊重及び人権の擁護、文化や習慣の配慮、意思決定の支援やセルフケアを目指す視点からの援助を考察するとともに、実施する援助とその根拠を明確にして課題を解決する力を身に付けている。	母性の健康課題の解決に当たっては、性と生殖に関わる健康を目指すとともに、生命の尊重及び人権の擁護を重視し、主体的かつ協働的に看護の実践に取り組む態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
5 6 7 8	母性の健康と看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母性の概念</li> <li>・母子保健の動向</li> <li>・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ</li> <li>・母性看護の特徴</li> <li>・母性看護の倫理的課題</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母性の健康と看護について理解できる。</li> <li>・母性の健康と看護に関わる多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。</li> <li>・母性の健康と看護について自ら学び、母性の健康の保持増進を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</li> </ul>	定期考査 授業態度 提出物 小テスト
9 10	女性のライフサイクル各期の健康課題と看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思春期</li> <li>・成熟期</li> <li>・更年期</li> <li>・老年期</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性のライフサイクル各期の看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。</li> <li>・女性のライフサイクル各期の看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。</li> <li>・女性のライフサイクル各期の看護について自ら学び、母性の健康の保持増進を目指し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</li> </ul>	定期考査 授業態度 提出物 小テスト

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	看護臨地実習	単位数	11単位 (1,2学期)	学年・学科・コース	3年・衛生看護科
使用教科書	なし		副教材等		なし

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>看護の見方・考え方を働かせ、臨地において実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、看護の実践に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨地における看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。</li> <li>・臨地における看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて解決策を探求し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。</li> <li>・臨地における看護について、よりよい看護の実践を目指して学び、人々の安全と安楽を守り、健康の保持増進と生活の質の向上に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</li> </ul>
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
臨地における実践的・体験的な学習活動を通して、臨地の施設・設備や社会資源を理解し、看護に属する各科目で習得した知識と技術の統合を図るとともに、看護を実践する際のリスクマネジメントを踏まえた知識と技術を身に付けている。	臨地における看護の対象がもつ様々な健康課題について、対象の理解を基盤とした上で必要な援助を探求し、倫理原則、科学的根拠、優先順位、社会資源の活用、対象の多様な価値観の尊重と意思決定の支援などを踏まえて解決する力を身に付けている。	多様な健康課題の解決に当たっては、臨地における実践的・体験的な学習活動を通して、看護の職業倫理、生命倫理、人権擁護などに基づく望ましい看護観を醸成し、看護職の果たすべき役割を踏まえ、保健医療福祉に関わる多職種と連携・協働し主体的に看護の実践に取り組む態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 5 6 7 8 9 10	領域別看護臨地実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人看護臨地実習</li> <li>・老年看護臨地実習</li> <li>・小児看護臨地実習</li> <li>・母性看護臨地実習</li> <li>・精神看護臨地実習</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・各領域における看護実践と理論を結び付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。</li> <li>・各領域における看護実践について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだすことができる。</li> <li>・各領域における看護実践について自ら学び、人々の健康を保持増進するために主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</li> </ul>	参加態度 実習日誌 提出物 自己評価 技術到達度 指導者評価

令和8年度 年間学習指導計画案

科目	看護情報	単位数	2単位	学年・学科・コース	3年・衛生看護科
使用教科書	医療・看護系のため情報リテラシー (東京図書) Excel でまなぶプログラミング (実教出版)			副教材等	なし

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>看護の見方・考え方を働かせ、看護情報に関する実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、看護の実践に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。</li> <li>・看護情報に関する基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。</li> <li>・看護情報について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の健康に関する課題解決に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</li> </ul>
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
看護の実践に必要な保健医療福祉に関わる情報と個人情報及び、それらを実際の看護で活用するための知識と技術を身に付けている。	看護の実践に必要な多職種で共有する情報と情報活用に関する課題について、関連する法・制度、情報セキュリティ、職業倫理を踏まえて解決する能力を身に付けている。	人々の健康に関する課題の解決に当たっては、情報と情報技術の適切な活用を目指し、情報の管理や取扱いに責任をもち、主体的かつ協働的に看護の実践に取り組む態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 5 6 7 8	情報社会の倫理と責任	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報社会の特徴</li> <li>・情報社会の倫理</li> <li>・情報を扱う個人の責任</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報社会の特徴と個人の責任について理解できる。</li> <li>・情報社会の特徴と個人の責任に関する課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見出すことができる。</li> <li>・情報社会の倫理と個人の責任について自ら学び、適切な情報の取扱いに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</li> </ul>	定期考査 授業態度 発問評価 提出物 小テスト
9 10 11 12	看護における情報の活用と管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健医療福祉分野の情報</li> <li>・情報システムの特徴</li> <li>・情報の活用</li> <li>・情報の管理</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護における情報の活用と管理について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。</li> <li>・看護における情報の活用と管理に関する課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見出すことができる。</li> <li>・看護における情報の活用と管理について自ら学び、看護における課題解決に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</li> </ul>	定期考査 授業態度 発問評価 提出物 小テスト
12	看護における課題解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に応じた情報収集</li> <li>・情報分析と解決方法</li> <li>・情報の発信方法</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護における課題の発見から解決の過程について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。</li> <li>・看護における基本的な課題を発見し、倫理観を踏まえ情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して解決策を見出すことができる。</li> <li>・看護における課題の発見から解決の過程について自ら学び、情報及び情報技術の適切かつ効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</li> </ul>	授業態度 発問評価 提出物 小テスト